

施策 14－3 特別支援教育の推進

(主担当部局：教育委員会事務局)

施策の目標

(めざす姿)

インクルーシブ教育システムの理念をふまえ、特別な支援を必要とする子どもたちが、それぞれの教育的ニーズに応じた学びの場において、安全に安心して早期からの一貫した指導・支援を受けることで、持てる力や可能性を伸ばし、将来の自立と社会参画のために必要な力を身につけています。また、障がいの有無に関わらず、子どもたちが互いに交流することで、理解し、尊重しあいながら生きていく態度を身につけています。

1. 基本事業の取組状況

基本事業名

・令和6年度の主な取組

① 一人ひとりに応じた切れ目のない教育の推進

- ・特別な支援を必要とする児童生徒が適切な指導・支援を受けることができるよう、小中学校および高等学校等でパーソナルファイル等の活用を進めるとともに、高等学校卒業後の進路先へも支援情報の円滑な引継ぎが行われるよう、同ファイルの活用をさらに進めています。また、教員が適切な指導・支援ができるよう、高等学校での発達障がい支援員4名による巡回相談を進めています。
- ・障がいの有無に関わらず、子どもたちが共に学ぶことができるよう、交流および共同学習を進めるとともに、副次的な籍については、5市5町で取り組んでいます。
- ・定時制3校(伊勢まなび高等学校、みえ夢学園高等学校、北星高等学校)に加えて、全日制課程の紀南高等学校においても、通級による指導を開始しました。
- ・特別な支援を必要とする子どもたちはどの学校にも在籍しており、特別支援教育に係る教職員の専門性向上を図る必要があることから、教職員のニーズに応じた研修を実施しています。

② 特別支援学校における自立と社会参画に向けた教育の推進

- ・特別支援学校高等部生徒の進路希望を実現し、地域生活へ円滑に移行できるよう、計画的・組織的なキャリア教育と職場開拓を進めています。また、テレワーク支援員を配置し、ICTを活用した在宅就労など、新しい働き方や技能に対応した就労先の開拓や就職支援を進めています。
- ・安全で安心な医療的ケアを実施することができるよう、担当する教職員の専門性向上を図る研修を実施するとともに、指導医や指導看護師を学校に派遣しています。また、通学に係る保護者の負担を軽減できるよう、登校時に看護師等が福祉車両等に同乗して、痰吸引等の医療的ケアを行う通学支援を実施しています。
- ・特別支援学校の子どもたちが、一人ひとりの発達段階や障がいの状況、体力に応じて卒業後もスポーツに親しむことができるよう、障がい者スポーツの取組を進めています。
- ・計画的な老朽化対策および施設の狭隘化等に対応するため、特別支援学校の施設整備を進めています。盲学校および聾学校は、老朽化対策・安全対策として城山特別支援学校の隣地へ校舎を新築移転するため、建築予定敷地の埋蔵文化財調査や木材調達を進めるとともに、建築工事に着手します。松阪あゆみ特別支援学校については、教室不足の解消を図るとともに、肢体不自由のある子どもたちの新たな就学先とするため、校舎増築のための実施設計を行っています。
- ・特別支援学校の子どもたちが安全に安心して通学できるよう、老朽化したスクールバスを2台更新します。

2. KPI（重要業績評価指標）の状況

KPIの項目						関連する基本事業	
令和3年度	4年度	5年度	6年度		7年度	8年度	6年度 の評価
現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値	
特別支援学校高等部の一般企業就職希望者の就職率						①②	
—	100%	100%	100%	—	100%	100%	—
100%	100%	100%	—		—	—	
特別支援学校における交流および共同学習の実施件数						②	
—	600 回	700 回	800 回	—	900 回	1,000 回	—
524 回	756 回	846 回	—		—	—	
通級指導教室による指導担当教職員の専門性向上を図る年間を通じた研修を受講した教職員の数(累計)						①②	
—	30 人	60 人	110 人	—	120 人	150 人	—
0 人	50 人	93 人	—		—	—	

3. 令和7年度の課題と取組方向

基本事業名

・令和7年度以降に残された課題と対応

① 一人ひとりに応じた切れ目のない教育の推進

- ・特別な支援を必要とする子どもたちが適切な指導・支援を受けることができるよう、小中学校および高等学校等でパーソナルファイル等の活用をさらに進めるとともに、高等学校卒業後の進路先へも支援情報の円滑な引継ぎが行われるよう、同ファイルの活用を進めます。また、教職員が適切な指導・支援ができるよう、高等学校での発達障がい支援員による巡回相談を引き続き実施します。
- ・障がいの有無に関わらず、子どもたちが共に学ぶことができるよう、交流および共同学習を進めるとともに、副次的な籍については、市町と協議し、導入市町のさらなる拡大を進めます。
- ・伊勢まなび高等学校、みえ夢学園高等学校、北星高等学校、紀南高等学校の通級による指導に加えて、白子高等学校においても、通級による指導を開始します。
- ・特別な支援を必要とする子どもたちはどの学校にも在籍しており、特別支援教育に係る教職員の専門性向上を図る必要があることから、引き続き教職員のニーズに応じた研修を実施します。

② 特別支援学校における自立と社会参画に向けた教育の推進

- ・特別支援学校高等部生徒の進路希望を実現し、地域生活へ円滑に移行できるよう、計画的・組織的なキャリア教育と職場開拓を進めます。ICTを活用した在宅就労、短時間就労など、新しい働き方や技能に対応した就労先の開拓や就職支援を進めます。また、新たな勤務形態における福祉サービスとの併用等の支援を進めます。
- ・安全で安心な医療的ケアを実施することができるよう、担当する教職員の専門性向上を図る研修を実施するとともに、指導医や指導看護師を学校に派遣します。また、医療的ケアを必要とする子どもたちの学習を保障し、通学に係る保護者の負担をさらに軽減できるよう、登校時に看護師等が福祉車両等に同乗して、痰吸引等の医療的ケアを行う通学支援を拡充します。
- ・特別支援学校の子どもたちが、引き続き一人ひとりの発達段階や障がいの状況、体力に応じて卒業後もスポーツに親しむことができるよう、障がい者スポーツの取組を進めます。
- ・計画的な老朽化対策および施設の狭隘化等に対応するため、特別支援学校の施設整備を進めます。盲学校および聾学校は、老朽化対策・安全対策として城山特別支援学校の隣地へ校舎を新築移転するため、建築工事と併せて木材調達等を行います。松阪あゆみ特別支援学校につ

いては、教室不足の解消を図るとともに、肢体不自由のある子どもたちの新たな就学先とするため、校舎増築工事を行います。
・特別支援学校の子どもたちが安全に安心して通学できるよう、各校の児童生徒数の増加をふまえ、スクールバスを増車します。

4. 主な事業

《（１）一人ひとりに応じた切れ目のない教育の推進》

①早期からの一貫した教育支援体制整備事業

（第10款 教育費 第1項 教育総務費 4 教育指導費）

予算額：(R6) 21,167千円 → (R7) 21,387 千円

事業概要：特別な支援を必要とする子どもたちが、一人ひとりの教育的ニーズに基づき最も適切な場で学べるよう、市町と連携した就学支援を進めるとともに、パーソナルファイル等を活用した支援情報の引継ぎを行うなど、切れ目のない支援を進めます。特別支援学校に通訳・翻訳を行う外国人児童生徒支援員を配置します。高等学校において、発達障がいのある生徒への支援や保護者への相談、教職員への指導・助言を行う発達障がい支援員を配置するとともに、通級による指導を担当する教職員等への研修を実施します。

《（２）特別支援学校における自立と社会参画に向けた教育の推進》

①特別支援学校就労推進事業

（第10款 教育費 第1項 教育総務費 4 教育指導費）

予算額：(R6) 6,288 千円 → (R7) 7,153 千円

事業概要：特別支援学校において計画的・組織的なキャリア教育を推進するため、キャリア教育サポーターを活用して生徒一人ひとりに合った業種・業務と支援方法を企業に提案する形の職場開拓や、企業等と連携した職場実習等を実施します。また、専門的な人材を活用し、短時間就労等、多様な働き方ができる職場開拓を行うとともに、多様な働き方支援員を配置し、テレワークや短時間勤務等の新たな勤務形態における、福祉サービスの併用等の支援を進めます。

②特別支援学校メディカル・サポート事業

（第10款 教育費 第1項 教育総務費 4 教育指導費）

予算額：(R6) 27,852 千円 → (R7) 64,348 千円

事業概要：医療的ケアを必要とする子どもたちが身体的に安定した状態で教育活動に参加できるよう看護師免許を有する職員と教員が連携して医療的ケアを実施するとともに、研修会の実施により教職員の専門性の向上や、校内サポート体制の充実を図ります。また、医療的ケアを必要とする子どもたちの学習を保障し、通学にかかる保護者負担をさらに軽減するため、登校時に、看護師等が福祉車両等に同乗する通学支援を拡充します。

③特別支援学校施設建築費

（第10款 教育費 第5項 特別支援学校費 1 特別支援学校費）

予算額：(R6) 569,190 千円 → (R7) 2,831,290 千円

(872,342 千円 → 2,960,399 千円 ※2月補正含みベース)

事業概要：盲学校および聾学校について、老朽化対策・安全対策として城山特別支援学校の隣地へ移転するため、校舎建築工事および共同調理場建築工事に取り組むとともに、建築工事と併せて木材調達等を行います。松阪あゆみ特別支援学校について、教室不足の解消を図るとともに、肢体不自由のある子どもたちの新たな就学先とするため、校舎増築工事を行います。

④特別支援学校スクールバス整備事業

(第 10 款 教育費 第5項 特別支援学校費 1 特別支援学校費)

予算額:(R6) 71,620 千円 → (R7) 104,587 千円

事業概要:老朽化に伴う車両更新および在籍する子どもの数の増加に伴う増車のため、スクールバスを 3 台購入します。

⑤特別支援学校学習環境等基盤整備事業

(第 10 款 教育費 第5項 特別支援学校費 1 特別支援学校費)

予算額:(R6) 269 千円 → (R7) 198,252 千円

事業概要:GIGA スクール構想の実現に向け、特別支援学校小中学部の子どもたちが一人ひとりの障がいの特性や状況に応じて、適切な ICT 機器、ソフトウェア、アプリ等を選択し活用できるよう ICT 端末や入出力支援装置等を順次更新します。盲学校、聾学校、城山特別支援学校の共同給食調理場等の整備に伴い必要となる厨房機器等を設置します。